氏名	加藤 聖一
学位の種類	博士（事業構想学）
学位記番号	第52号
学位授与年月日	令和7年3月19日
学位授与の条件	学位規程第3条第3項該当
学位論文題目	専門性を有する移住者の定住に関する実証的研究
論文審査委員	主査 櫻木 晃裕 副査 藤澤 由和, 郷古 雅春

論文の要旨

本研究は、「倫理実証主義」に基づく「仮説検証型」の研究である。労働人口の絶対的不足状況に対して、外国籍（外国人）人材に注目して、人材を確保し、定着を促進する可能性を探索する研究は、きわめて高い社会的意義（社会性）を内包しており、高付加価値の研究であるといえる。

本論文は、全7章から構成されている。第1章では、研究の社会的背景、研究の目的と意義、論文の構成を述べている。経営学における「一時滞在」を、「専門性を有する移住者」として「定住」に向けて拡充する社会的意味を提示している。第2章では、本研究の主要概念である「国際的な移住者」「異文化接触」「文化変容」「異文化適応」「自己主導型駐在員」「専門職移民」などが、当該領域の基礎理論、基本概念、主要学説に基づいて規定されている。また、「移住」と「定住」との関係性について別途で述べている。第3章では、研究対象を「自己主導型駐在員」と「専門職移民」との2つに規程がなされ、その移行過程のモデルが提示している。さらに、「適応」の強弱の及ぼす影響にかかわる仮説の方向性を提示している。第4章では、調査対象を外国人介護人材として規定し、調査方法、調査項目、分析方法についての提示している。検証する4つの研究仮説についても述べている。第5章では、調査結果の基本属性および抽出変数の基礎統計量を示している。変数間の相関分析（統計的に有意な水準の相関関係）、回帰分析（統計的に有意な水準の因果関係と規定要因）を実施して分析結果を提示している。第6章では、分析結果に基づいた詳細な考察により、直接的あるいは間接的に、設定した4つの仮説の検証を実施している。①「自己主導型駐在員」から「専門職移民」への移行可能性について、②外国人介護人材の定着に向けての実践展開について、これらの検討を実施している。第7章では、本研究全体の結論、研究の学術的意義と社会的貢献性、研究の限界、今後の展開の方向性について述べている。

審査結果の要旨

本研究に対して、研究の社会的背景、研究の目的、研究の独自性と意義、先行研究に対する批判的考察、概念規定、研究方法、調査方法および調査実施、統計解析（定量分析）、全体考察、実践的展開などの側面から詳細に検討した結果、学術論文として一定の水準にあるものと考えられる。特に、「労働力不足」および「人口減少社会」という大きな社会課題に直面している我が国には、本研究の分析対象である「外国人介護人材」という枠を超えて、人材確保に対する援用可能な価値を提供するものとして高く評価するものである。一方で、概念規定および論理構成の精緻性、設定仮説の妥当性、分析方法の多様性、結論への展開の整合性など、拡充すべき点もいくつか指摘される。ただし、これらを踏まえても、本研究における新規性あるいは独自性の価値を何ら損なうものではない。

なお、本研究の重要部分を構成する一部が、学術論文「外国人介護人材の異文化適応が職業定着に係る意思に与える影響」として「一般財団法人厚生労働統計協会」の『厚生指標』に掲載され一定の評価にあること、学会発表「外国人会議人材育成プログラムの開発」が「日本地域政策学会第21回全国大会」において報告されたことは、本論文の審査に加味するものである。これらに基づいて本論文を審査した結果、学位「博士（事業構想学）」を認めるものである。